

# 「日本は核武装をしている」か？ (2)

練馬区 板橋光紀

—会報1月号(1)からの続きです—

⑧核兵器が通常兵器に比べて安上がりであることと、抑止力の点で効率が高いことから、既保有の6ヶ国の外に、パキスタン、リビア、イスラエル等の「保有疑惑国」が沢山出て来た。マレーシアのように核を開発したいと考えている国や、其の気になればいつでも開発が可能な「保有予備軍」みたいな国も現れるだろう。中国は東西南北をこれらの核ポテンシャルグループにとり囲まれているのだ。

中国は開放政策によって経済成長の速度を速めている。近い将来多くの国々が商品を作るにしても売るにしてもこの巨大な市場に好むと好まざるとにかかわらず係わってくるに違いない。国のサイズが大きいだけに臨機応変に小回りを利かせる経済運営も容易でない。何かにつけて超大国ばかりでなく、中小の国々からさえ軽く見られ、恫喝を受けて言いなりにならされる可能性がある。

我々は160年前のアヘン戦争を忘れていない。イギリスは中国のお茶などを大量に買いすぎて輸入超過に陥り、貿易収支を改善する為に植民地インドから大量のアヘンを運んで中国へ売りに来た。中国は単にアヘンの害から国民を救う為にアヘンの輸入を禁止、イギリスは中国の措置に怒って沿岸諸都市を次々と破壊、輸入の自由化を迫って来たもので、恫喝以外の何物でもない。

最近アメリカとの間で経済摩擦が多発している。アメリカは要求を飲まない場合外な課徴金の支払いを義務づけて来る。これも一種の恫喝で中国の死活にかかわる点では砲艦によるイギリスの手法と比べても、ベストとコレラの違い程度で、恐ろしさの点で大差はない。

⑨700年以上昔の13世紀、中国と朝鮮が日本を攻めたことがある。当時の中国や朝鮮は蒙古のフビライに服属させられており、二度にわたる日本遠征は蒙古の恫喝によるもので、中国人や朝鮮人の意思によるものではない。延べ20万人が900隻の船で九州の博多湾へ攻め入ったと云われるが、その内蒙古人戦士はわずか数千人で、20万人の兵士の大半が中国人か朝鮮人であったようだ。

日本人は今だに「蒙古が、元寇が」と思い込んでいるようだが、草原を馬で駆け回り、海も知らず、船を見たこともない蒙古人が数百人も乗れる大型船を900艘も建造出来る筈がないし、玄海灘の荒波を乗り切る航海術を心得ているわけがない。蒙古の戦士は一人当たり5～6頭の換え馬をひきつけていないと満足な戦いが出来ない。馬を持たない蒙古の戦士は「普通の人」になってしまい、何万頭もの馬を船で連れていった形跡もないことから蒙古人の戦士の数が極めて少なかったことが判る。

強国に服従させられるのは悲しいことだ。今の日本は政治、経済、国防等、国の根幹に係わる重要な

決定の多くに於いて、アメリカの意見に従わなければならない実状は、首根っこを蒙古につかまれて引きずり廻されていた13世紀の中国に近い立場にある。後方支援ではあったが、アメリカの要請でベトナム戦争に参戦させられた韓国も似たような運命にあった。

⑩日本は「非核三原則」を宣言、それを提唱した佐藤栄作はノーベル平和賞を受けている。広島や長崎の悲劇のこともあり、大多数の日本人、多分右翼に属する人達であっても「核」に拒否反応を表すであろうこと、そして二度と戦争を起こすまいと誓っているであろうことは疑いない。

しかしそういった日本人の平和指向の継続は、現時点の世界情勢がこのままでずっと大きく変化せずに推移することを前提としなければ維持出来ない。歴史をひもといてみると、身近に何か起きた場合、日本人はそれまで抱いていた金科玉条の信念を簡単に放棄したり、ときには180度違った方向へ変心する習性があると思われる。為政者の間には何か事件や問題が発生すると、たとえ多発したり慢性的に繰り返えされる恐れが無くとも、それらを「奇貨」として新しい法律を作ったり改正したりする傾向がある。

憲法の改正が困難な場合でも、条文の拡大解釈や閣議決定、官僚の裁量権などを駆使して大多数の国民の意志とは違った方向へ踏み出すことが比較的容易な風土があり、奇貨に目を奪われ過ぎる国民のほうも、一度決められてしまうと間もなく新しい制度を淡泊に容認してしまうようだ。太平洋戦争の苦しい記憶は多くのアジアの国々が普段は忘れてしまっている、日本が何かする度に蘇り、反感が増幅され、問題を必要以上にこじらせてしまう可能性がある、いずれにしても隣国から見ると日本は問題児であると認識せざるを得ない。

⑪日本の軍事予算が世界で5本の指に入る程大きくなって来た背景には、アメリカの意志が作用しているようにも見受けられる。アメリカの軍事費の一部を日本に肩代わりさせることによって、アメリカの財政が多少改善出来るせいかも知れない。日本人は人が好いのかも知れない。中国の軍事予算が増加していると言うが、前述の通り、旧式のを新しい兵器に切り替えていることに起因している。最新兵器には数多くのハイテクが採用されている。ミサイルなどはエレクトロニクスのかたまりのようなもので、精度を高める為には外国製の部品を用いることもあるから、中国の低い人件費を物差しにして軍備のサイズを推量するのは間違っている。

中国の軍部が2万種類にのぼるアルバイトをして、不足気味な軍事予算を補っているとの話しは正確ではない。多分軍と一体に成っている国営の軍需産業